

令和3年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団 体 名	公益財団法人神奈川芸術文化財団	
施 設 名	神奈川県立音楽堂	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内 定 額 (総 額)	32,397	(千円)
	公 演 事 業	24,458 (千円)
	人 材 養 成 事 業	45 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	7,894 (千円)

(1) 令和3年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	音楽堂室内オペラ・プロジェクト第4弾「シャルリー～茶色の朝」日本初演（仏語上演・日本語字幕付）	令和3年10月30日・10月31日	I「禁じられた音楽」による室内楽コンサート、II「シャルリー」、IIIクロストーク※ 出演：アンサンブルK	目標値	1,200
		神奈川県立音楽堂		実績値	903 ※
2	音楽堂ヘリテージ・コンサート（シリーズ）	令和3年8月29日 ※5月1日、※11月27日（※延期令和4年3月3日含む）	出演：アンサンブル・アンテルコンタンポラン、マティアス・ピンチャー（音楽監督・指揮） ※公演中止：コンスタンチン・リフシッツ（ピアノ）、※ミハイル・プレトニョフ（ピアノ）	目標値	2,100
		神奈川県立音楽堂		実績値	522 ※
3	シリーズ「新しい視点」	令和4年2月27日	<紅葉坂プロジェクト Vol.1>ワークインプログレス（公募で選出された3企画の公開プレゼンテーション）	目標値	300
		神奈川県立音楽堂		実績値	106

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和3年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	音楽堂 制作・広報イン ターン	令和3年9月26日～ 11月14日	室内オペラ公演の制作・広報業務、 準備からリハーサル、本番、終了後 のまとめまで12日間のプログラム	目標値	2
		神奈川県立音楽堂		実績値	3

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和3年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	第55回クリスマス音楽会 「アドヴェント・コンサート」	※令和3年12月12日、※12月10日	※神奈川フィルハーモニー管弦楽団と歌手による「メサイア」抜粋等 ※「メサイア」の合唱講座	目標値	930
		神奈川県立音楽堂		実績値	1,051
2	子どもと大人の音楽堂	令和3年7月30日、令和4年3月19日	<子ども編>出演：大友良英スペシャルビッグバンド <大人編>出演：邦楽創造集団オーラJ、鈴木昭男（創作楽器）、渋谷毅（ピアノ）ほか	目標値	1,000
		神奈川県立音楽堂		実績値	914
3	子どものためのアウトリーチ	令和3年10月8日、11月9日、11月12日、11月15日、11月26日 ※令和4年2月1日	「音楽堂アウトリーチ」 打楽器コンサート&楽器体験 出演：若鍋久美子、上原なな江、富田真以子 お箏のコンサート&楽器体験 出演：丸田美紀、中川佳代子、高橋裕恵、マクイーン時田深山、小池摩美、宇佐美明子、上田弘子 ※「先生のためのアウトリーチ」 お箏の指導法研究映像配信・教材動画撮影	目標値	60
		座間市立東原小学校、厚木市立北小学校、厚木市立毛利台小学校、川崎市立西御幸小学校、横須賀市立豊島小学校 ※神奈川県立音楽堂		実績値	360

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価

社会的役割等(ミッション)や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

新型コロナウイルス感染症の影響により、2公演の中止や一部公演内容の変更が生じたが、実施手段等可能な限りの対策を講じて各事業を実施し、社会的役割を果たすことができた。

【公演事業】■音楽堂室内オペラ・プロジェクト第4弾：フランスから初来日のアンサンブルKを招聘し、ブルーノ・ジネールの室内オペラ「シャルリー～茶色の朝」日本初演を実現した。作曲家は健康上の理由で来日できなかったが、記者懇談会や上演後のクロストークにオンラインで参加した。社会的テーマに即した原作を題材に、ブックリーディングと美術ワークショップを事前に実施し、音楽と美術、文学、哲学を結び付け幅広い層の観客に向け発信した。■音楽堂ヘリテージ・コンサート：質の高い室内楽公演で音楽堂のブランドイメージを形成し、セット券を積極的に発売しホール独自の顧客層を構築することができた。コロナ禍による外国人入国制限のため実施できた主催公演は1回となり、結果的にセット券の払戻も発生したが、最高峰の現代音楽集団アンサンブル・アンテルコンタンポランをサントリーホール、水戸芸術館と協働招聘したことで、広く聴衆を集め、音楽文化の活性化に貢献した。■シリーズ「新しい視点」：新しい表現や視点をもつ企画を公募し、16企画を審査の上、3企画を採択。創造過程をワークインプログレスとして聴衆と共有、翌年度の本公演に向け発信した。

【人材養成事業】大学生と社会人3名が参加。事業計画から招聘、契約事務等の座学、SNS等による広報実践、接触が制限されていた海外スタッフのオンラインによるレクチャー、作曲家への新聞取材の聴講など、充実した教育機会を実現。仕事の現場体験、研修日誌、総括シート提出、総括座談会を経て、「ホールの仕事」への理解にとどまらず、参加者自らの人生設計や社会に対する課題意識のきっかけづくりにもなった。

【普及啓発事業】■音楽堂クリスマス音楽会「メサイア」は県内の合唱団と神奈川フィルハーモニー管弦楽団により50年以上継続してきたが、舞台上の距離をとりつつ音楽的水準を保つことは困難と判断、内容を変更して合唱を除いた「メサイア」抜粋とヨーロッパ宗教音楽を集めた「アドヴェント・コンサート」を実施した。また、県民参加型合唱の伝統を継続すべく「メサイア」の合唱講座を実施した。楽曲の理解を深めるとともに、県民合唱参加者の思いを共有し、創造活動拠点としての音楽堂へのエンゲージメントを高めることにもつなげた。■子どもと大人の音楽堂：<子ども編>従来の音楽堂聴衆層とは違う層にアピールするため、テレビで知られる大友良英スペシャルビッグバンドを採用。小さな子ども連れも気兼ねなく参加できるよう出入り自由で実施。指揮者体験等参加コーナーなどで、本格的な演奏鑑賞と子どもたちの音楽原体験の両立を実現した。<大人編>「音楽堂のピクニック」イベントとして、特設サイトで著名作家による対談、美術家小金沢健人による出演者インタビュー等の映像プログラムを配信。リラックスして音楽を楽しむ事業のイメージ、時間の流れや自然との共生という裏テーマの普及に努めた。公演では、聴衆はホワイエからバックステージ、舞台上を通り入場し、アイヌ歌謡からジャズ、創作楽器まで多彩な音楽をフェスティバルのように楽しんだ。加えて富士の風穴の音環境を体感するサウンドインスタレーションを通し、「音」との根源的な出会いを体感する機会を実現した。■子どものためのアウトリーチは、厚木、座間他で実施すると同時に各地域の先生方に視察の機会も設け、「先生のためのアウトリーチ」の必要性についてヒアリングを行うなど次年度に向けた下地作りができた。「先生のためのアウトリーチ」は、着手初年度とコロナ感染拡大の影響で各地域の方針で実施を控える傾向があった。唯一の実施予定先であった茅ヶ崎市立小中学校音楽教科研究会もオミクロン株の流行により中止になるも、会場を音楽堂に切替え、映像配信と同時に本格的な教材プログラムの映像撮影を行い、今後継続して使用できる教材を制作した。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

日本初の公立音楽ホールとして、未来の公立音楽ホールのプロトタイプとなることを目指す神奈川県立音楽堂は、「特別な芸術体験の生成」「音楽堂ブランドの形成と発信」「都市ストックの形成・クリエイティブな地域社会の形成」を探求している。具体的な活動としては、優れた室内楽ホールとしての可能性を世に問う質の高い室内楽公演と、時代の変化に即し立ち上げた、聴衆とのコミュニケーションも含めた新しいプロデュース表現の紹介を継続している。令和3年度はこれらの実施に際し、近隣公立文化施設や他の音楽ホール、フランス文化省の外郭団体・アンスティチュ・フランセとの連携などで、初来日を含む演奏団体の直接招聘による独自性の高い企画の実現や、幅広い芸術と現代思想とのつながり、地域振興などへの提言ができた。

また、若い世代が主体的に上質な音楽体験にアクセスし、成長の過程でその体験を糧としていけるよう、令和3年度より全ての主催公演において高校生以下対象に無料のシートを恒常的に設けた。今年度は特に室内オペラ・プロジェクトとヘリテージ・コンサートの主催公演で限定数に達する等、若い世代の呼び込みに功奏した。

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

新型コロナウイルス感染症の影響で中止となった公演以外については、概ね目標を達成できた。また、やむを得ず、内容を変更実施した公演についても入場者数の多さ、アンケートの満足度からも事業として成功であったといえる。

【公演事業】①音楽堂室内オペラ・プロジェクトにおいて「室内オペラに興味を持った・好きになった」等の質問を行い、肯定的回答 40%以上を達成する。[76.7% 達成]

②「音楽堂ヘリテージ・コンサート（主催 3 公演／共催 4 公演）」のセット券（数種類設定）の広報と販売を、共催主催者とも連携して早期、積極的に行い、一人の聴衆が様々な演奏を楽しめるよう促進する。セット券購入者が各公演購入者の 5%を達成する。[7.7% 達成]*

③公演来館者へのアンケートにて「室内楽の魅力を知ることが出来たか」「音楽堂の魅力に気づいたか」「街の魅力に気づいたか」等の質問を行い、「楽しめた」「気づいた」という肯定的回答 70%以上を達成する。[77% 達成]

④シリーズ「新しい視点」において 5 団体以上の応募実績を集め、ワークインプログレス公演における来館者アンケートで「本公演に期待できる」「活動に期待する」等の肯定的回答 50%以上を達成する。[応募実績 16 団体 達成] [肯定的回答 68% 達成]

⑤全公演の有料販売枚数が有効座席数の 60%以上を達成する。 [79% 達成]*

⑥全公演を通して「高校生以下無料」の利用者が総販売実績枚数に対し 1%以上を達成する[3.6% 達成]

*実施した主催 3 公演平均

【人材養成事業】

① 参加するインターン自身に達成したい目標を 3 つ設定してもらい、プログラム終了後に 1～5 までの 5 段階で達成度を振り返った結果、3 以上が最低 1 以上あるようにする。[3 以上が 9 達成]

② 参加したインターンにプログラムの満足度についてのアンケートを行い、1～5 までの 5 段階で 3 以上が最低 2 以上あるようにする。 [3 以上が 3 達成]

③ 参加するインターンに「公立文化施設の制作・広報スタッフの仕事についての理解と興味が深まったか」「室内オペラについての理解と興味が深まったか」「神奈川県立音楽堂への親近感がわいたか」のアンケートをとり、プログラム終了後に 1～5 までの 5 段階のうち 3 以上が最低 1 以上あるようにする。[3 以上が 3 達成]

④ 参加者公募の告知を各大学、公立文化施設等に送付するが最低でも送付先を 20 か所以上達成する。[送付実績 0] ※コロナ禍での授業休校等に配慮、メール、SNS 等で案内

⑤ 広報プログラムの一環として様々な場面でインターン専用アカウントからの SNS 発信等を行ってもらうが、プログラム全体を通して最低でもリーチ数が合計 1,000 を超えるようにする。[最終日令和 3 年 11 月 14 日時点インターン生自身のカウントで合計 10,821 達成]

⑥ プログラム参加応募者数が最低でも定員の 2 倍（4 名）以上となるようにする。[4 名 達成]

【普及啓発事業】

① 各プログラムの参加者へのアンケートを行い、「音楽体験が楽しかった」という満足 「楽しかった」「どちらかといえば楽しかった」=92%を維持する。[92% 達成]

②「楽しかった」だけでなく、「これからも音楽体験をしてみたいと思った」という音楽への積極的な興味関心が高まったとみられる回答が 7 割以上を達成するようにする。[97% 達成]

③プログラムを通じて「音楽堂に関心をもった」「音楽堂に（また）訪れたいと思った」といった音楽堂への関心、信頼が高まったと見られる回答が 5 割を達成するようにする。[85% 達成]

④ 外国籍の子どもたち、障がい者、高齢者やジェンダーの異なる「他者の存在を意識し、ともに楽しむことができた」とするアンケート回答が 10%を達成できるようにする。[45% 達成]

⑤紅葉ヶ丘公立文化施設連携会議や地元ボランティアグループなどの地域セクターとの協力・提携件数を年度に 7 件以上達成する。[7 件 達成]

⑦ 県内の教育現場の先生方からの評価として「参加してよかった」「今後への期待がもてる」等肯定的評価が 5 割以上達成できるようにする。[100% 達成]

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

【公演事業】

■音楽堂室内オペラ・プロジェクト第4弾「シャルリー～茶色の朝」日本初演（仏語上演・日本語字幕付）
入場者数：903名 ※目標値に届かず

令和3年10月30日・10月31日（2日：2回実施）※作曲家の招聘は健康上の理由で中止

関連企画：10月2日ブックリーディング（1日：1回実施）、10月17日美術ワークショップ（1日：1回実施）

■音楽堂ヘリテージ・コンサート（シリーズ）全8公演（主催3公演、共催5公演）

入場者数：522名

※実施した1公演はまん延防止等重点措置実施時期にあたり定員の50%で販売終了のため目標値に届かず

※シリーズ全8公演のうち主催公演2公演、共催公演3公演は新型コロナウイルス感染症の影響で中止

令和3年8月29日アンサンブル・アンテルコンタンポラン（1日：1回公演）（主催公演）

■シリーズ「新しい視点」

令和3年8月下旬公募開始

令和3年12月選考審査実施

令和4年2月27日<紅葉坂プロジェクトVol.1>ワークインプログレス実施

入場者数106名

【人材養成事業】音楽堂室内オペラ・プロジェクト制作広報インターン

令和3年8月下旬募集開始

令和3年9月26日、10月2日、14日、17日、21日、24日、26日、28日、30日、31日、11月4日、14日

（全12日実施）参加者数3名

【普及啓発事業】

■第55回クリスマス音楽会 「アドヴェント・コンサート」

令和3年12月12日（1日：1回）※舞台上のディスタンス保持等のため内容を変更して実施

※令和3年12月10日（1日：1回）合唱講座「メサイア」の魅力（県民参加合唱の代替企画）

■子どもと大人の音楽堂

<子ども編>

令和3年7月30日（1日：1回）大友良英スペシャルビッグバンド

関連企画：令和3年7月31日（1日：1回）子ども版建築見学ツアー&ミニコンサート

<大人編>

令和4年3月19日（1日：1回）音楽堂のピクニック

関連展示 令和4年3月18日、19日、5日、12日（2日：1回+オンライン・イベント）

■子どものためのアウトリーチ

令和3年10月8日、11月9日、11月12日、11月15日、11月26日

※令和4年2月1日

「子どものためのアウトリーチ」年内5校で実施（5日：5回）

「先生のためのアウトリーチ」※新型コロナウイルス感染症の影響で映像配信および収録に変更

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

申請した事業全般において新型コロナウイルス感染症の影響により中止・変更となった事業を除き、概ね計画通りに進み、事業費についても概ね適切であった。

※要望当時から大きな変更が生じた事業

音楽堂室内オペラ・プロジェクト第4弾「シャルリー～茶色の朝」日本初演

音楽堂ヘリテージ・コンサート（シリーズ）

音楽堂室内オペラ・プロジェクト制作広報インターン（助成対象経費認識の誤りにより変更修正済）

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

全国で最も古い公立の音楽専用ホールとして、歴史的建造物としての価値と、神奈川県民が高度な音楽芸術に触れる中核拠点として長年機能してきた歴史を持つ神奈川県立音楽堂のブランドイメージに即して、音楽事業としての上質性、本物志向を担保することに留意した。

また同時に、平成6年に設立され、オペラ、バレエ、コンテンポラリー・ダンス、現代音楽、現代美術等の幅広い芸術ジャンルにわたり第一線のアーティスト、作品の鑑賞機会を県民に提供し、若手を含む多様なアーティストへの新作委嘱や複合的な芸術ジャンルのコラボレーションを含む前衛的プロジェクトへの取り組みも継続してきた公益財団法人神奈川芸術文化財団の企画・制作力、幅広いネットワークを活用した。

結果として、公演事業、普及啓発事業いずれも、アーティストの創造性、独創性を存分に生かした芸術的取り組みへの挑戦も実現した。新型コロナウイルス感染症が収束しない中、厳しい行動制限を伴う海外からの直接招聘にも成功し実績を重ねることができた。

特に創造性が認められた主な取り組みは以下の通り。

■音楽堂室内オペラ・プロジェクト第4弾「シャルリー～茶色の朝」日本初演（仏語上演・日本語字幕付）

・ファシズムと市民個人の責任という現代の人間社会共通の課題に鋭い批評性で切り込み、世界的に知られる寓話『茶色の朝』の知られざるオペラ作品であり、音楽的にも極めて価値が高い作品の非常に貴重な日本初演の機会であった。本編だけでなく、第二次大戦前のナチによる弾圧を受けた作品群も研究者としての作曲家の特性を活かして並列し、さらに在フランスの作曲家ホールをオンラインで繋ぎ、日本語版原作にメッセージを寄稿している哲学者高橋哲哉、社会的テーマを持つ作品群で知られる美術家やなぎみわのクロストークを配置することで、芸術作品の歴史的、社会的意義にまで迫る立体的公演として構成した。関連プログラムでも、ブックリーディング、美術作品制作という異なる手法でそれぞれ原作へのアプローチを試みる創造的な取り組みを行なった。

■シリーズ「新しい視点」＜紅葉坂プロジェクト Vol.1＞ワークインプログレス

・時代を切り開くような新しい表現、クラシック、現代作品を問わずレパートリーをとらえなおす新しい視点、広報も含めアーティストがセルフプロデュースを行う新しい手法などを公募審査により採択。令和4年度の本公演にむけたプロジェクトを協働して創造し、その過程をワークインプログレスとして立ち上げた。

■子どもと大人の音楽堂＜大人編＞音楽堂のピクニック

・イベントとして特設サイトを開設し多角的な映像プログラムを配信し、事業のキーイメージの普及に努めた。公演当日は、ふだんと違う入り口から入館しステージ上を通り客席へ到着する導線によるツアー体験、アイヌ歌謡からジャズ、創作楽器まで、多彩な音楽をフェスティバルのように楽しめる企画の中で体験型サウンドインスタレーションも設置するなど、一日を過ごす空間としての音楽ホールの建築空間全体の魅力を創造できた。

■子どものためのアウトリーチ「先生のためのアウトリーチ」

・本来学校へ赴き行う予定であった「先生のためのアウトリーチ」も新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止を余儀なくされたが、神奈川県立音楽堂に会場を移し、学校現場の先生の意見もとり入れた「お筆の指導法研修映像配信・教材動画」を本年度設立した社会連携ポータル課と連携して制作し、同「社会連携ポータルサイト」から教育関係者のアクセス可能なコンテンツとして制作した。今後もコンテンツとして充実させ、必要としている先生方に公開していく。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

聴衆や地域住民が自ら参加できるプログラムの実施や地元の実演家、スタッフを起用するとともに、近隣の公立文化施設との連携により地域の文化芸術振興の発展、向上を継続していくことに繋がっている。

令和3年度の主な取り組みは以下の通り。

音楽堂室内オペラ・プロジェクト第4弾「シャルリー～茶色の朝」関連プログラム

①ブックリーディングワークショップ「茶色の朝を迎えないために」

講師：桐山智也（舞台演出家）をKAAT 神奈川芸術劇場の紹介で起用

② 美術ワークショップ「茶色の朝を体験しよう」

講師：清野晃代（画家）を横浜市民ギャラリーからの紹介で起用、実施会場として4階アトリエを使用

シリーズ「新しい視点」＜紅葉坂プロジェクト Vol.1＞ワークインプロセス

・時代を切り開くような新しい表現を公募審査により採択したプロジェクト制作過程を公開する「ワークインプロセス」を無料で公開、地域の住民も呼びこんだ。

子どもと大人の音楽堂＜子ども編＞関連企画

子ども版建築見学ツアー&ミニ・コンサート

出演：神奈川新聞社による「かながわ音楽コンクール」受賞のフルーティストを臼井源太を起用

参加無料の子ども向け建築ツアーとコンサート、まん延防止措置の期間にあたったため、近隣地域からの参加者が多く好評を得た。

子どものためのアウトリーチ「先生のためのアウトリーチ」

・本来神奈川県内の小学校へ赴き行う予定であった「先生のためのアウトリーチ」も新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止を余儀なくされたが、神奈川県立音楽堂に会場を移し、学校現場の先生の意見もとり入れた「お箏の指導法研修映像配信・教材動画撮影」を社会連携ポータル課と連携し制作し、必要とする先生方に公開していく。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

音楽堂機能を強化するため、以下の取り組みを総合的に行い、組織活動を持続的に発展していく。

(1) 関係者ネットワークの強化

- ・関係団体（県公立文化施設協議会、劇場・音楽堂等連絡協議会、公共劇場舞台技術者連絡会等）に積極的に関わり、研修に参加、運営ノウハウの共有や相互の人材交流などを積極的に行っている。
- ・インターンシップの実施や、公演の関連企画等を通して教育機関との連携を図っている。

(4) 人材育成

- ・組織力強化のため、キャリアアップを見据えた人事配置を行い、事業運営・施設運営・経営に強い人材育成を促進している。また外部からの研修生を積極的に受け入れ、業界全体の底上げに付与するだけでなくネットワークの強化にも努めている。

(2) 財源の多様化

- ・手厚いホスピタリティを実現し、長年継続して利用していただくことで、利用料金収入の安定化を図り、効果的な劇場運営に努めている。
- ・寄付金集めの専従担当者を置き、県内の企業及び個人を中心に賛助会員組織を運営しているほか、インターネットを通じた小口寄付の仕組みを整備し、寄付者の拡大を図っている。

事業の実施

(3) 評価と改善

- ・設置者が行う専門家による外部評価のほか、法人独自の外部評価の仕組みを整備し、専門委員による視察と評価会議を開催し、課題抽出と業務改善を行っている。
- ・外部委員と財団職員による検討会を設置して、施設運営についての理念やミッション等をまとめたビジョンを新たに作成し、職員の行動指針として共有していくこととしている。

- (5) 社会連携ポータル「文化施設があらゆる人々へ開かれた場となること」、「文化芸術を通じた地域との連携の強化」の実現に向けて、ノウハウを集約し強化していきます。社会と芸術をつなげる窓口=ポータルの機能を果たし、文化施設と社会との新しい関係を構築していく。